

## 【1】脳の仕組みを活かしたイノベーション創成型研究開発

---

### 1 評価結果

#### 一部改善

(現状維持：2票、一部改善：2票、抜本的改善：2票、廃止：0票)

### 2 取りまとめコメント (要旨)

事業の評価、効率的な執行及び先端の技術開発あるいは基礎研究につながるポジティブなフィードバックができるようにするための学術発表に留意して取り組むこととする。

### 3 有識者のコメント

- ・ 極めて重要な技術開発プロジェクトであること、市場での開発供給を待っていても民間セクターには手が出せる段階でないこと、を考えると、政府が率先すべきである。
- ・ 開発リスク（期限までに開発目標水準に達しないリスク）もあるかと思われるが、かなり具体的な目標設定が行われている。従来府省タテ割りを克服して施策パッケージとして進めていることから、計画通りプロジェクトの結果を見極めるべき。
- ・ 市場で実用化できる段階を遅滞なく判断する必要がある。
- ・ 最終的なアウトプットにおける、あるいは研究過程における各プロジェクトの協働のあり方を工夫してより高い成果に結びつけることを期待する。
- ・ 多くのプロジェクトが同時進行していることは分業の効率性を獲得できる一方、非効率もあり得るので注意が必要（情報の共有等）。
- ・ ネットワーク型BMIは困難な問題であるから、「プロジェクトの実施期限」と「期限までの達成目標」を明示し、「やめる決断」を行うための環境を作成し、公表しておくことが必要である。
- ・ ネットワークの制御技術はメーカー等が自己開発で行うことではないか。基礎技術面であれば、大学等の研究者が実施すればよい。政府が税金を使って特定分野に乗り出す意義は少ない。
- ・ ネットワーク型BMIについて、電動車椅子への指令と安全運行という目標設定では過大過重な投資になる可能性があるのではないか。
- ・ こうした研究のコントロールタワーが委員会形式で良いのであろうか。目標設定にズレ（基礎と実用化）が生じる危険性がある。
- ・ 実用化とコストとの観点から、それ以上の技術開発に結びつくのかどうか

というチェックが必要。

- ・ 各省間の連携の強化が必要である。
- ・ 折角、コミュニケーションネットワークのイノベーションを目指すのであれば、高齢者・障がい者に絞るのではなく、最初から国益を考えてあらゆる産業を想定して開発を行うべきであった。脳の先端性を考慮すると、国民の理解が行き届きにくいために発展が阻害される恐れがある。
- ・ 一度研究開発推進体制を見直して、科学技術者の集団に人文・社会学者を加えて国民に対する広報宣伝活動を促進することが重要である。
- ・ 政府全体の大規模な研究プロジェクトであり、相互連携が不可欠ゆえ、事業についての中身、減額が適時適切に行えるように、事業の評価体制が透明性のある公正なものとして構築される必要がある。